

第78回（一社）日本映画テレビ技術協会 技術開発賞を4年連続受賞

日本テレビ放送網株式会社(本社：東京都港区、代表取締役社長執行役員 福田博之、以下「日本テレビ」)は(一社)日本映画テレビ技術協会にて、「3Dスキャンワークフローの簡易化とその活用」のテーマが第78回(2024年度)技術開発賞を受賞しましたことをご報告いたします。技術開発賞部門では、昨年に続き4年連続の受賞となります。

この賞は毎年、放送に関連する技術の研究・開発、あるいは放送現場での工夫・考案で効果を上げた技術により、顕著な業績を残した個人またはグループを対象に授与されるものです。

日本テレビでは、今後も積極的な新技術の導入により、皆様へ魅力的なコンテンツをお届けできるよう更なる開発を進めてまいります。

受賞テーマ： 3Dスキャンワークフローの簡易化とその活用

本開発では3D Gaussian SplattingというAI技術を用いることで3Dスキャンのワークフローを大幅に改善し、誰もが容易に扱えるシステムを目指しました。主に以下の点が高い評価を受け、受賞に至りました。

- 従来の3Dスキャン技術では、専用の機材が必要であり、放送品質に仕上げるための事後処理にも数週間を要するという課題がありました。一方で、本システムでは、スマートフォンなどで10分ほどの映像を撮影するだけで、高品質な3DCGを生成することが可能になりました。
- 3Dデータの生成が容易になり、多様なコンテンツへの活用が大きく広がりました。具体的には以下のよう活用例が挙げられます。
 - 競技コースCGの迅速な自動生成、ならびに実寸大クライミングウォールのスタジオ内でのリアルタイム合成
 - 特設サイトにおける、能登半島地震の被災状況を伝えるデジタルアーカイブの構築と3Dビューアの実装



能登半島の特設サイト(<https://news.ntv.co.jp/pages/notojishinkiroku>)

●受賞者のコメント

★起案／開発 戸部雄輝（技術統括局 コンテンツ技術運用部）
岸楓馬（技術統括局 制作技術部）

本システムの導入により、簡便で迅速な3DCG制作が容易となり、様々なコンテンツにおいてCGの導入機会を飛躍的に拡大することができました。従来の手法では、制作時間やデータ収集の制約により実現が困難であった案件にも対応可能となり、被災地の状況を立体的に可視化するなど、新たな番組制作の在り方を提示することができました。このたびは名誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。

～過去の日本映画テレビ技術協会賞 受賞歴～

●第 77 回（2023 年度）技術開発賞

○新しいビデオベンの開発と多機能化

ビデオベン開発チーム（日本テレビ放送網(株)）

●第 76 回（2022 年度）技術開発賞

○AI モザイク編集ソフト「BlurOn」（ブラー・オン）の開発

BlurOn 開発チーム（日本テレビ放送網(株)、(株)NTT データ）

●第 76 回（2022 年度）映像技術賞 第 26 回（2022 年度）技術大賞（経済産業大臣賞）

○「DRAMATIC BASEBALL」

プロ野球中継高度化検討チーム 日本テレビ放送網(株)、キヤノン(株)、(株)読売新聞東京本社

●第 75 回（2021 年度）技術開発賞 第 25 回（2021 年度）技術大賞（経済産業大臣賞）

○AI 業務支援システム「エイディ」の社内開発と運用

日本テレビ放送網(株) AI 社内開発チーム

●第 73 回（2019 年度）技術開発賞

○テレビ番組制作支援用 AI 顔認識システムの開発

AI 顔認識システム開発チーム

日本テレビ放送網(株)、(株)東芝、東芝デジタルソリューションズ(株)、(株)日テレ IT プロデュース共同

●第 72 回（2018 年度）映像技術賞 第 22 回（2018 年度）技術大賞（経済産業大臣賞）

○「第 95 回箱根駅伝」における AI を用いた映像表現

画像認識 AI 応用検討チーム 日本テレビ放送網(株)

●第 71 回（2017 年度）技術開発奨励賞

○画像認識技術を用いた制作支援

画像認識 AI 検討チーム

日本テレビ放送網(株)、(株)東芝、東芝デジタルソリューションズ(株) 共同

○ネットバンドカメラの開発とその運用

高橋 一徳／(株)日テレ・テクニカル・リソーシズ、保刈 寛之／日本テレビ放送網(株)

<以降省略>